

事業名	さとうきび反収向上対策事業
-----	---------------

総事業費	8,187 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	さとうきび10アール当収量の増加	
事業の実績 と成果	取組内容	農業振興公社へ作業委託をしたさとうきび生産農家へ作業料金の一部助成を行った。
	成果	作業委託することで適期作業が可能となり、生産量の増加を図った。令和4年度は台風14号被害とサビ病被害が見られたため、目標値は上回ったもののさらなる反収の増が期待できる。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	国庫事業で作業料金の一部助成が補助対象となる場合があるが、台風などの自然災害発生時や12月補正予算にて事業の公募が始まるため、予算要求額と執行額に大きなズレが生じてしまう。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和4年度においては、作業料金や夏・秋植えに対する一部助成をすることで、作付け面積が増加し、反収の向上も図られ、経営の安定化へ繋げることができている。また、多収性の新たな品種である「はるのおうぎ」が今後増えてくることでさらに反収の増、生産量の増加が見込まれるため、適期管理とともに生産農家の所得向上を目指したい。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	10アール当たりの単収向上を図るため、令和5年度についても引き続き、支出が必要となる。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	さとうきび種苗供給安定化対策事業
-----	------------------

総事業費	1,244 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	さとうきび10アール当収量の増加	
事業の実績 と成果	取組内容	原苗ほを設置し、優良種苗の増殖を行い、その増殖した苗をさとうきび生産農家へ供給（販売）した。
	成果	種苗の更新により、生産量及び品質の向上を図った。令和4年度は台風14号被害やサビ病被害があったものの、被害程度は小さく、目標を上回った結果となった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	供給した種苗の病害虫被害の苦情や、県費（1/3以内）が毎年減額されており、原苗ほ設置者の負担が大きくなっていることから、原苗ほ設置者（設置面積）の確保に苦慮している。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和4年度も原苗ほを設置し、優良種苗の増殖を行い、さとうきび生産農家へ供給することができた。サツマイモ基腐病の被害が収束しない中、さとうきびへの転換による面積拡大が続いていることから、今後、原苗ほ設置者の確保と苗の安定供給等が課題である。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	生産量及び品質を保つため、令和5年度についても引き続き、支出が必要となる。
-----------	---------------------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	さとうきび基幹作業機整備事業
-----	----------------

総事業費	2,971 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	さとうきび生産量・生産額の増加	
事業の実績 と成果	取組内容	さとうきび機械共同利用組織や作業受託組織を対象に、さとうきび基幹作業機械（乗用管理機2台、2連ロータリー1台）の導入及びハーベスタの機能向上（1台）に係る経費の一部助成を行った。
	成果	機械導入により受委託体制の強化を図り、生産量及び生産額の増加に努めた。令和3年度は台風等大きな自然災害被害がなかったため、目標を上回った大きな要因と考えられる。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	受委託体制の更なる強化を図るためにも、導入機械や実施主体の選定については、事業効果のより高いものを優先して実施していきたい。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和4年度については、4組合から事業申請があり、必要な機械整備に対し支援を行い、作業の効率化と生産性の向上を図った。 本事業の実施を通じて、受委託体制の更なる強化に努めたい。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	基幹作業を委託しないと交付金を受けられない農家や、高齢化または生産量を確保するため、令和5年度についても引き続き、支出が必要となる。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	園芸・花卉優良品種育苗供給運営事業
-----	-------------------

総事業費	2,210 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	優良種苗の供給、新規栽培者の確保	
事業の実績 と成果	取組内容	フラワーセンターでのフェニックスロベレニーの育苗 フラワーセンターの修繕 令和4年度のひさかき優良選抜並びに育苗計画を市花き振興会と協議。また、ヒサカキの育苗
	成果	令和4年度に配布予定のフェニックスロベレニーの苗5,000本をフラワーセンターで育苗。2名の新規栽培者へ配付。残り1,800本は令和5年度へ繰越し。 ヒサカキは優良選抜(16本)し、9月に約400本を挿し木、3月にポットへ移植した。今後はポットで育苗を行う。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	フェニックスロベレニーは2名の新規栽培者を確保。生産から出荷までに1~2年程かかるがその間も管理は必要なので、関係機関や市花き振興会と連携し、新規栽培者のフォローが重要となる。また、ヒサカキは育苗から成木にするまで2~3年ほどかかるため、今回選抜した母木が優良なものか見極めるのに、まだ時間が必要となる。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和4年度は、配布用のフェニックスロベレニーの苗5,000本の育苗を行うとともに、新規で2名に苗の無償配布を行い、花き栽培について課題となる初期段階での育苗支援を行った。また、併せて、9月の台風14号により被害を受けた育苗用のハウスの修繕を行い、育苗環境の改善に取り組んだ。今後、作付けの定着と合わせ新規作付け者を如何に継続して増やしていくかが、課題である。 一方、花き振興会において、枝物であるヒサカキの高品質な苗の確保ため優良母木の選抜と育苗に取り組んだ。振興会会員の熱心な協力があり、産地化に向けた体制が整いつつある。引き続き、取組を強化していきたい。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	新規栽培者が継続して栽培、あるいは面積の拡大をめざせるよう、関係機関及び市花き振興会と連携し、継続してフォローする必要がある。花き振興会等の研修を活用し、新規栽培者だけでなく、市内の栽培者の技術向上を図ることで、栽培への意欲を高める。 また、育苗技術を学び、誰もが優良な母木を育苗できるような技術の向上を目指す。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	フラワーセンターでの育苗 フェニックスロベレニー 5000本

事業名	畜産振興対策事業
-----	----------

総事業費	163 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	畜産振興へ向けた業務を行う。	
事業の実績 と成果	取組内容	畜産団体への負担金の支払及び畜産関係会議への出席を行う。
	成果	畜産振興へ向けた畜産関係会議への出席を行った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	今後も関係団体への負担金を継続して、畜産振興へ向けた取組が必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	県の外郭団体である県畜産協会及び県内用牛振興協議会へ負担金として支出している。両組織とも畜産行政の補完機関として、畜産の振興と畜産の安定供給に寄与すること等を目的としており、重要な役割を果たしている。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	県内の関係機関や団体等に対する負担金としての支出が必要であるため、令和5年度についても引き続き、支出が必要となる。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	多面的機能支払交付金事業
-----	--------------

総事業費	45,580	千円
------	--------	----

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	地域の共同活動等によって、農地や農業用施設など地域資源の適切な保全管理を推進する。	
事業の実績 と成果	取組内容	各種研修会に参加した。組織活動の指導等を行った。
	成果	組織活動の面積拡大や積極的な研修参加する組織が増えた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	交付決定が遅く活動繁忙期に交付金支給ができないため、活動資金を繰越金に頼ざるを得ない時期がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	現状の組織数を維持する目標数を達成している。農地保全や環境美化等の役割を地域ぐるみで担う活動であり、継続した活動としたい。一方、過疎・高齢化が進む中、活動継続のための体制継続が課題である。また、事務の一部を土地改良区に委託している自治体もあることから、引き続き可能性を検討したい。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	これまで事務処理が課題で新規参入を見送る組織があるので、新規参入に向けた積極的な取組を行う。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	援農隊マッチング支援事業
-----	--------------

総事業費	5,343 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	農業労働力不足の解消	
事業の実績 と成果	取組内容	農業従事者の高齢化や後継者の減少、経営規模拡大等により生じる労働力不足に対して農業雇用労働力を支援し、運営主体である市農業振興公社に補助金を交付する。
	成果	運用主体である西之表市農業振興公社に補助金を交付することで、労働力不足の解消につながった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	農閑期における援農隊の仕事の確保が課題である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	農業従事者の高齢化や後継者の減少、経営規模拡大等による労働力不足に対応するため、市農業振興公社を通じて農作業に従事する人材を派遣する事業である。サツマイモ基腐病の影響により、例年に比べ受託依頼が少なくなっているが、農作業における労働者不足は続いている。一方で、令和3年度より一般財源による事業となっていることから、継続にあたっては、公社内部の職員に編入するなど、体制のあり方も含め検討していく必要がある。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	事業を継続しつつ、2024年度以降の農業労働力確保のための体制づくりについて、検討を進める。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	西之表市農業振興公社支援事業
-----	----------------

総事業費	3,389 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	業務運営の適正化及び健全化を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	農業の技術と経営感覚を習得させる機関として営農大学校を運営し、新規就農者の確保する。また、西之表市農業振興公社の作業受託体制維持に資するために負担金を交付することで支援を行った。
	成果	営農大学校において令和3年度に1名入学し、研修2年目として農業の技術と経営感覚を習得させる研修を行っていたが、本人の農業に対する方向性の違いから、やむを得ず研修先変更することになった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	営農大学校の生徒の確保、研修品目の限定、実際の就農を見据えた独立生産方式の研修が必要である。農業機械についても、老朽化が進んでいることから、計画的更新が必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	市農業振興公社については、サトウキビの適期管理及び収穫等の受託事業や農業の担い手確保・育成のための技術等を習得させる営農大学校の運営を行う等、本市の農業振興において重要な役割を担っており、安定的な運営のために負担金や補助金による継続的な支援を行っている。さらに、令和4年度は、サトウキビを収穫するケーンハーベスターの更新補助により業務運営の充実を図った。 今後、所有する農業機械の計画的更新や営農大学校における生徒の確保と体制づくりが課題となっている。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	市農業振興公社と種子島営農大学校の運営支援を行う。
-----------	---------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	担い手育成推進事業
-----	-----------

総事業費	6,891 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	担い手等の経営改善を支援	
事業の実績と成果	取組内容	各協議会への負担金交付及び補助金交付
	成果	担い手育成に向け活動している協議会の運営支援及び個人に対して機械導入の支援を行った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	認定農業者も高齢化してきており、5年後、10年後を見据えて、若い担い手の育成が求められている。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	負担金又は補助金を交付する各協議会において、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和4年度においても会議が書面議決となったり、研修会を中止するなど活動が制限されることが多かった。会員数についても、高齢化やサツマイモ基腐病の影響により目標値に届かず減少傾向にある。 また、農業を取り巻く環境は、厳しい状況が続いており、将来の市の農業を担う農家を育成し、経営安定を支援するため、今後も各協議会活動をより充実したものにしていく必要がある。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	各協議会と連携し、担い手の確保に努める。 国の事業を活用し、中心経営体への機械導入の支援、農地集積を進める。 市単独事業による認定農業者への機械導入支援について、検討を進める。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明														
<p style="text-align: center;">認定農業者数の推移</p> <table border="1"> <caption>認定農業者数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>認定農業者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29年度</td> <td>151</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>148</td> </tr> <tr> <td>R1年度</td> <td>144</td> </tr> <tr> <td>R2年度</td> <td>152</td> </tr> <tr> <td>R3年度</td> <td>131</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>122</td> </tr> </tbody> </table>	年度	認定農業者数	H29年度	151	H30年度	148	R1年度	144	R2年度	152	R3年度	131	R4年度	122	<p>年度末時点での認定農業者数の推移。高齢による規模縮小やサツマイモ基腐病の影響による経営改善計画の作成ができない等により、更新を希望しない農家が増えてきている。</p>
年度	認定農業者数														
H29年度	151														
H30年度	148														
R1年度	144														
R2年度	152														
R3年度	131														
R4年度	122														

事業名	農業人材力強化総合支援事業
-----	---------------

総事業費	15,861 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	新規就農者を増やす。	
事業の実績 と成果	取組内容	農業次世代人材投資資金、経営発展支援事業補助金、新規就農定着促進事業補助金の交付 交付対象者との面談、指導 交付対象者のほ場巡回
	成果	認定新規就農者に農業次世代人材投資資金を交付し、定着させることで担い手の育成につなげることができた。 また、経営発展支援事業補助金及び新規就農定着促進事業補助金を交付することにより、農業生産活動における初期投資の負担を軽減し、定着につなげることができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	対象者が資金を基に資本整備を進める5年間であってほしいが、実態は生活費に充てられている現状が多い。資金交付期間終了後には農業で生計を維持できるようにする必要があるので、技術面だけでなく、経営面の指導も重要である。市担い手育成総合支援協議会と連携しながら個人面談・ほ場巡回・パソコン簿記・研修会の開催を行いながら支援をしていく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	認定新規就農者に農業次世代人材投資資金を交付し、定着させることで担い手の育成につなげていく事業である。令和4年度は、目標の2名に至らなかったが、新たに1名が認定新規就農者となり、市担い手育成総合支援協議会と連携しながら個人面談やほ場巡回等による支援を行った。また、経営発展支援事業補助金及び新規就農定着促進事業補助金を交付することにより、農業生産活動における初期投資の負担を軽減し、定着につなげることができた。今後、就農後5年の交付期間において、安定的に農業経営が行えるよう、如何に基盤づくりに取り組むかが課題である。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	市担い手協と連携し、個人面談やほ場巡回を定期的に行い、補助金の交付をすることで新規就農者の定着につなげていく。補助金の交付終了者についても、継続的に農業経営ができるように、栽培技術とあわせて経営管理能力の向上を図る。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	人・農地プラン推進事業
-----	-------------

総事業費	361 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	地域の中心的経営体（担い手）と農地の出し手となり得る農家を明確化する。 人・農地プランの実質化	
事業の実績と成果	取組内容	検討会の開催により、人・農地プラン2地区の見直しを行った。また、地域計画の作成に向けて、関係機関と情報共有を図った。
	成果	令和6年度末の地域計画策定に向けて関係機関から情報収集を行うとともに、工程表の作成を行った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	目標地図の作成に必要な国のシステム開発が遅れており、目標地図の素案の作成に着手ができない状況であるため、農業委員会と連携して既存システム（水土里情報システム）の活用による素案作成も検討していく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和3年度に意見徴収した2地区について令和4年度に検討会開催し、プランの見直しを行った。基盤法の改正により人・農地プランを見える化した地域計画の策定が必要となったため、令和6年度末の完成を目指し、関係機関と一体となり、農地の集積・集約化、地区数の見直し等を進めていく必要がある。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	令和6年度末までの地域計画策定に向けて、農業委員会をはじめ、関係機関と連携して取組を進める。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	西之表市農業経営収入保険加入推進事業
-----	--------------------

総事業費	2,902 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	農業経営の安定化を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	・ 農業共済組合と連携した加入推進活動の実施 ・ 補助金（加入者負担の一部助成）を農業共済組合へ交付
	成果	農業経営収入保険への加入を推進し、農業経営の安定化を図った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	農業経営収入保険の掛金の額が、加入者の前年度実績や次年度計画規模により決定されるため、農業共済組合と綿密に連携を図り、補助額を算出する必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	近年、大規模な自然災害の発生や気象の変化等、農業者を取り巻く環境は厳しい状況にあることから、令和4年度から農業経営収入保険への加入を支援することで、農業経営の安定化を図った。農業共済組合と連携しながら取り組み、実績については、目標値をほぼ達成できている。加入については青色申告を行っていることが前提となっており、今後、如何に加入者を増していけるかが課題である。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	農業共済組合と連携し、加入件数の増加に努め、農業経営の安定化を図る。
-----------	------------------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	むらづくり実践活動支援事業
-----	---------------

総事業費	200 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	農村集落と集落外の多様な主体とが連携した課題解決に向けた取組を支援し、持続可能な農村集落の育成を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	農村集落と集落外の多様な主体とが連携した課題解決に向けた取組に対し、補助金を交付した。
	成果	農村集落と集落外の多様な主体とが連携した課題解決に向けた取組を支援し、持続可能な農村集落の育成を図った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	農村集落において、高齢化、人口減少により、地域住民だけでは農業生産活動や集落機能の維持が困難になるほど様々な課題が顕在化している。このような背景から、農村集落と地域内外の多様な主体との交流により、地域の課題解決のノウハウや新たな視点、機動力、専門知識・技術など「外からの力」を活用して、農村集落の維持・活性化を図る。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	農村集落と集落外の多様な主体とが連携した課題解決に向けた取組を支援する県の補助事業に対し、令和3年度及び令和4年度において種子島沖ヶ浜田黒糖生産協同組合が事業主体となり実施されたものである。地元伊関校区とも連携を図りながら、製造販売及び交流活動の拠点づくり、定住支援の受入体制整備、滞在型就農体験の実施等、農村が持つ課題の解決に向けた取組がなされた。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	令和4年度で事業廃止
-----------	------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	西之表市公社育苗ハウス事業
-----	---------------

総事業費	3,830 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	苗床を確保し、優良種苗提供数の増加を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	育苗ハウス修繕に係る補助金の交付
	成果	老朽化している育苗施設（鉄骨ハウス）の改修を行うことで、水稻及び安納芋バイオ苗の安定的な確保・供給へつなげることができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	修繕の費用が高額であるため、財源確保が課題である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	老朽化した育苗施設（鉄骨ハウス）の改修を行うことで、水稻及び安納芋バイオ苗の安定的な確保・供給へ繋げることができた。 一方で、令和3年度に引き続き、令和4年度についても、サツマイモ基腐病の影響により、栽培面積が減少し、安納芋バイオ育苗数が目標値まで至らなかった。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	全5棟の育苗ハウスを隔年で改修（2022年度で2棟改修済）する計画であるので、2023年度は事業休止。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	<p>修繕された育苗ハウスの屋根</p>
	

事業名	農地集積バンク事業
-----	-----------

総事業費	4,190 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	農地を地域の中心的経営体に集積する。	
事業の実績 と成果	取組内容	農地貸借の相談業務、事業推進員による訪問・電話での事業推進、貸借書類の作成、現地確認、既契約管理事務、機構管理地の解消
	成果	中間管理事業を活用した農地が増えた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	高齢化やサツマイモ基腐病の影響により経営規模を縮小する担い手が増え、遊休農地が増える懸念があるが、サトウキビや牧草への転換で耕地面積は比較的維持されている状況である。一方、条件の悪い農地については合意解約後に借り手が見つからない農地も出ており、機構管理地として保全管理作業を実施している。人・農地プランが「地域計画」として法定化され、計画策定地域においては基盤法による農地の貸借ができなくなるため農地所有者・耕作者へ中間管理事業の周知を行う必要がある。耕作する担い手を確保しつつ、優良農地の貸借を促す取組が必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和4年度は、農地貸借の相談業務、事業推進員による訪問・電話での事業推進のほか、機構集積組合を設立した住吉地域での集積により中間管理機構に貸し出しを行った。一方、高齢化やサツマイモ基腐病の影響により経営規模を縮小し解約をする担い手も多く、今後さらに遊休農地が増える懸念があることから、耕作する担い手を確保しつつ、優良農地を守っていく取組が求められている。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	事業推進員・農業委員と連携を図り、重点地区（能野・住吉）の地域集積を進める。 担い手農家を中心とした集積を進めていく。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	有害鳥獣対策支援事業
-----	------------

総事業費	13,909 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	多様な担い手育成

② 実施 (Do)

事業の意図	捕獲従事者へ報償金等による有害捕獲活動支援を行うことで、捕獲意欲を高め、継続した捕獲活動の強化を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	<p>猟友会が行う有害鳥獣捕獲活動への補助を行った。</p> <p>有害鳥獣捕獲従事者に対し、捕獲に伴う報償金を支払うことにより捕獲意欲を高めた。</p> <p>緊急時において、実施隊への捕獲依頼を行い、早急な対応を行った。</p>
	成果	ネットにかかった鹿の止め刺し依頼や緊急を要する被害に対して、実施隊員への依頼を行い、早急な対応を行うことが出来た。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	銃猟での捕獲を行う従事者が減少しており、カラスの追い払いなど鳥害対策が難しくなっている。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	<p>市猟友会との連携により、計画的な捕獲活動がなされ、農業被害の軽減に繋がっている。</p> <p>一方、従事者が高齢化してきており、体制の維持や従事箇所等の見直しについて、検討していく必要がある。</p>

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	シカの捕獲頭数の増加により、掘り返しても殻(骨)等が表面に出てくる場所があるため、埋設場を適切に管理する。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	確認検査（鹿）の様子
	確認検査（カラス、ヒヨドリ等）の様子